

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、令和3年度に続き、令和4年度もオンラインにより研究活動を中心となった。

### 1 例月の部会

4月から例月の研究部会をオンラインで11回実施した。研究活動に伴う情報のやりとりは電子メールが中心であった。8月に「研究部ワークショップ」の運営準備、12月に研究冊子の校正作業を対面で行った。

### 2 第19回 研究部ワークショップ

8月1日・5日にオンラインで実施した。2日間で、延べ300名を超える参加者があった。内容は、1日目:①「増えた語い・長くなった本文指導の工夫」、②「定期考査・パフォーマンステストから逆算して指導を考える」、③「即興で話す力を高める実践～英語で言いたかったけれど言えなかった日本語を調べる活動を通して～」2日目 ①「主体的に学習に取り組む態度を高める指導・評価の工夫」、②「5ラウンドシステム～実際の指導と評価～」、③「教科書1パート、1単元の指導」。計8名の研究部員が実践発表を行った。Zoom Breakout セッションによる意見交換の機会は多く設定できなかった。東京都の内外から大変多くの参加申し込みをいただいた。

### 3 研究内容: 中学校・小学校検定教科書における語彙

令和4年度は、現場の先生方にニーズを考慮し、(1)中学校検定教科書における太字の単語、(2)中学生が書く活動で使用した語彙(中間報告)、(3)「研究部中学校推奨語い 800」と「研究部小学校推奨語い 700」に基づく実践例を発表した。(1)では、中学校検定教科書の太字の単語を調べ、「研究部中学校推奨語い 800」と比較したところ、686語が含まれていた。今後、800語程度の「研究部推奨発信語彙」へと発展させていく予定である。(2)では、15校に在籍する中学1～3年生の英作文585編を調査対象とし、英作文の中で使用されている語彙を品詞別、各トピックで使用され単語を発表した。生徒は名詞・動詞・形容詞を多く使用しており、特に名詞においては固有名詞の使用が多く、平易な表現で説明したりパラフレーズしたりする方法を学ぶ必要がある。(3)では、部員の日頃の語彙指導実践を紹介し、さらに、Nation (2001)の Form-Meaning-Use に照らし合わせたところ、Useの指導がもっとも少なかった。今後は語彙を多方面から捉えて指導していく必要があると考えられる。

### 4 研究発表会・研究冊子「語いと英語教育(44)」発行

研究部研究冊子「語いと英語教育(45)」を研究発表会の日(2月21日)発行し、研究発表会の参加者に配信した。また、後日都中英研のウェブサイトに掲載した。

研究部研究発表会をオンラインで実施した。研究部からテーマに基づく、1年間の研究内容について発表した。指導・助言者として、日基滋之先生(拓殖大学教授)に研究内容について指導・助言をいただくとともに、「生徒のニーズを知り授業に活かす—日英パラレルコーパス EasyConc と検索ツールの活用、」をテーマにご講演をいただいた。当日の参加者は約70名であった。

(研究部長 文京区立本郷台中学校 溪内 明)